



アカウミガメの産卵 南部町千里海岸

南部町の千里海岸にはこの時期、産卵を迎えた母ウミガメが数多く上陸します。静かな夜の砂浜で、ゆっくりと時間をかけて産み落とされる新しい生命……。古代から連綿と続くこの営みを、そして自然豊かなこの海岸を、いつまでも守り続けていきたいものです。

Contents

まちづくり計画（素案 その1）の紹介2~6

新町

まちづくりの

基本方針

6月は、この地域の特性といえる「梅の収穫」時期のため、合併協議会はお休みをさせて頂きました。

そこで今回は、5月の第5回協議会で提案された、『新町まちづくり計画（素案 その1）』について、お知らせします。

この計画は、市町村の合併の特例に関する法律第5条に基づき作成するもので、南部町と南部川村が合併後に新町を建設していくための基本方針を定めるとともに、基本方針に基づく各分野の施策の方向を示し、総合的かつ効果的にその実現性を図ることにより、新町の速やかな一体性を促進し、均衡ある発展と住民福祉の向上などを進めます。計画の期間は、合併年度と

平成17年度から平成26年度までです。

新町の将来像

新町は、南部川水系の豊かな自然の恵みを一身に受け、「梅」、「備長炭」、「魚介」といった特産品の生産などを生業とするまちです。特に、梅、備長炭の生産量は日本一であり、全国的に見ても活力のある特徴的な町であるといえます。

森林、温泉、海など自然資源にも恵まれており、これらの自然資源がもたらす「潤い」、「安らぎ」、「交流」、「安心・安全」など様々な公益的機能が集積しており、買い物や食事などの日常的な都市サービスも利用できるという生活様式を実現できる地域です。

南部町と南部川村のそれ

それぞれの恵まれた環境（人・自然・産業など）が1つのまちとしてコンパクトにおさまることにより、個々の力が合わさってより活力に満ちた力強いまちになるとともに、コミュニティを重視したまちづくりを進めることが可能となります。

行政面においても、農林漁業や商工振興、市街地整備、環境保全などの各分野の施策を、地域一体のものとしてバランスをとりつつ実施していくことが期待できます。

又、今日の社会的潮流のもとでは、各種規制緩和などによる選択の自由がもたらされる反面、都市や企業などの競争は激化しており、常に社会の動向に配慮しつつ、地域などを運営していく必要に迫られています。JR紀勢本線、白浜空港、高速道路など、広域交通網や情報基盤の整備を背景として、全国、世界との「人・モノ・情報」の交流を図りつつ、活力ある特徴的な町の輝きをさらに増していくことが望まれます。

したがって、新町の将来像とまちづくりの柱を左図のように掲げて、まちづくり

に取り組んでいきます。

海・山・川の恵みの中で人が輝く 快適なコンパクトタウン南部郷

将来像

まちづくりの柱

み
な
べ
ご
う

緑豊かで快適なまち

永く住みたい魅力あるまち

便利・安心・安全なまち

互助・互恵のまち

うめ日本一の元気なまち

人口

南部町と南部川村が合併すると、人口14,734人（平成12年の国勢調査）となります。

産業別就業者割合を見ると、2町村全体で第一産業が41.4%となり、全国平均（5.0%）や県平均（10.6%）と比較しても極めて高く、典型的な農林水産業主体のまちであると言えます。

又、世代別の人口構成を見ると、65歳以上の高齢者比率が23.5%となっており、やはり全国平均（17.3%）や県平均（21.2%）と比較して高く、全国的にも高齢者率の高い地域であると言えます。

尚、国の推計によると、日本の人口は平成10年代後半をピークに減少を始め、平成26年には1億2659万人になると予測されます。それに対し、南部町・南部川村では、1980年代から人口減少が始まって

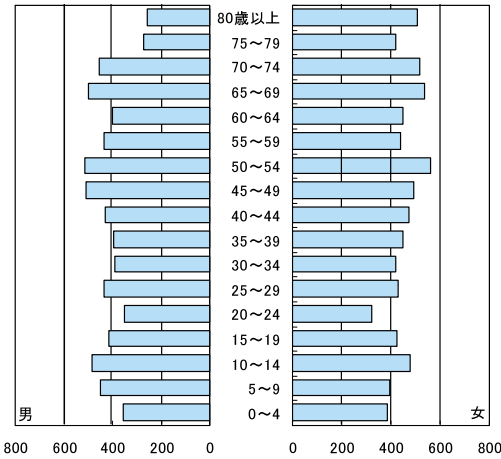
新町の基礎指標

市町村名	面積 (km ²)	人口 (人)	産業別就業者割合 (%)			年齢別 (3区分) 人口割合 (%)		
			1次	2次	3次	15歳未満	15~64歳	65歳以上
南部川村	94.1	18,666	25.6%	30.2%	3.5%	18.5%	57.4%	24.1%
南部町	26.0	8,881	28.1%	8.8%	3.1%	16.2%	60.8%	22.9%
2町村計	120.1	27,547	24.4%	24.7%	3.9%	17.2%	59.3%	23.5%
和歌山県	4,726.9	2,610,699	6.6%	4.2%	2.2%	14.9%	63.9%	21.2%
全国	377,812.6	126,925,584	3.2%	9.5%	4.3%	14.6%	67.9%	17.3%

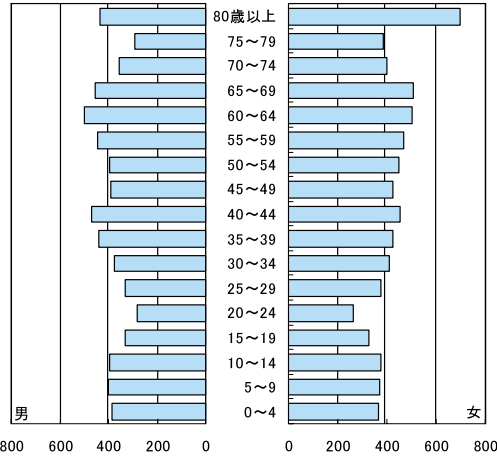
資料：平成12年国勢調査

おり、合併10年後の平成26年には13,870人と、現在より約900人、6%程度減少することが予測されます。

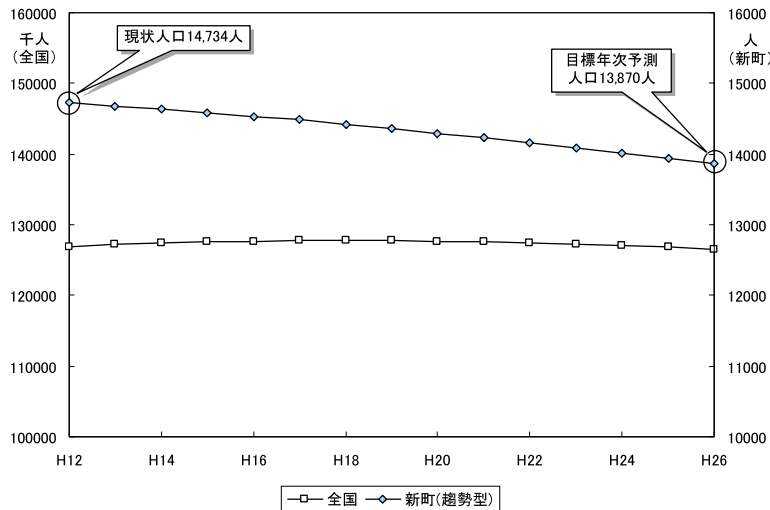
H12年南部町・南部川村人口構成



H26年新町人口構成



全国及び2町村の将来人口予測（国による推計などより作成）



新町では、全国的に少子高齢化が進む中で、現在の住民は今後も住み続ける施策の推進とともに、地域での雇用の場を創出すること

により若者の流出をくい止め、多自然居住地域として新町の魅力を発信し、都市からの移住者を受け入れる

など、現在の定住人口の維持向上を図り、世帯数は現状程度の維持向上を目指します。

新町まちづくりの 施策と基本方針

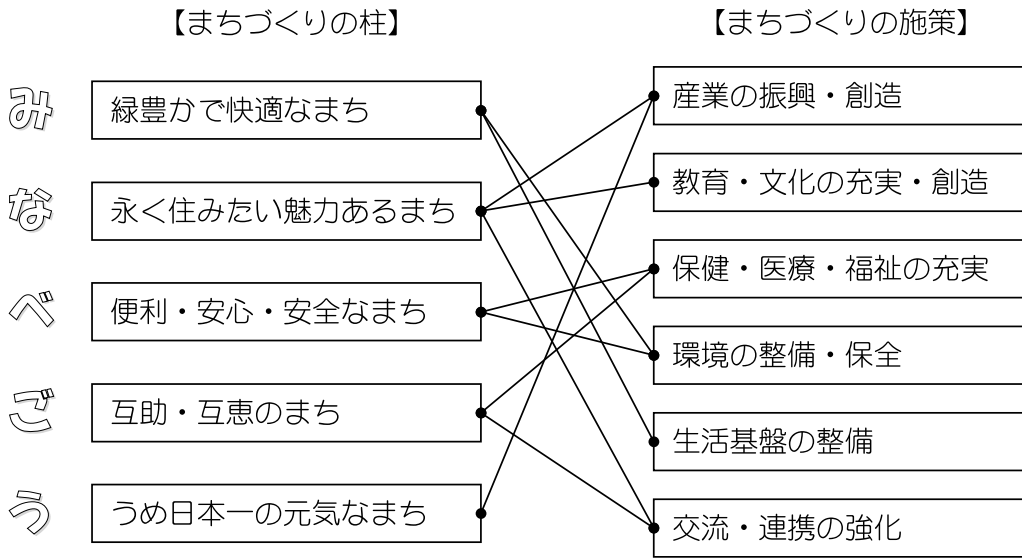
新町の将来像を実現する

産業の振興・創造

現在の経済状況は回復の

ためのまちづくりの施策及び基本方針は次のとおりです。

まちづくりの柱と施策の関連



兆しが見えにくく、働く環境を取り巻く状況は厳しい状態が続いています。新町においては、梅産業をはじめ特徴的な産業によって地域経済が支えられています。が、今後とも持続的に発展していくために、既存産業の振興とともに、新分野の起業支援を進めます。

教育・文化の充実・創造

人々の価値観が多様化している中で、学校・家庭・地域社会との連携を通じて、お互いの個性を尊重し、思いやりの気持ちを持った心豊かなまちづくりを展開していくことが求められています。

新町では、心豊かな人づくりをめざし、子供から高齢者まで、全ての人が自己実現できる環境づくりを進めます。又、ゆとりや個性、心の豊かさ、生きる力を重視した教育・学習の場づくりを進めます。さらに数多くの歴史的・文化的資源に恵まれた、地域文化の振興を図るとともに、次世代に伝えるしくみづくりを進めます。

ます。

保健・医療・福祉の充実

全国的に人口減少と高齢化が進展する中で、生きがいの持てる高齢社会と長寿志向、安心して子育てのできる社会と、一人一人の健康づくりが求められています。

新町では、高齢者や障害者の住みよい環境づくりの施策とともに、きめ細やかで総合的な子育て対策により、一人一人の主体的な健康づくりの支援、さらに高齢者や障害者が生きがいや目標を持って暮らせ、安心して子育てができる環境づくりを進めます。

環境の整備・保全
地域全体の環境保全や済みよい生活環境づくりをはじめ、地域で安心してくらする体制づくりが求められています。
新町では、全ての人に住みよく、住み続けたいまち、自然資源の保全とともに環境にやさしく、災害に強いまちづくりをめざします。

生活基盤の整備

生活のあらゆる面で、安全性、利便性、さらに快適性の確保が求められており、従来から進めてきた道路や、上下水道などの生活基盤の整備を引き続き進めます。

新町では、高速道路インターチェンジ周辺や幹線道路の整備のほか、子供から高齢者まで安心して憩え遊べる公園や緑地の整備充実を進めます。

交流・連携の強化

新町の個々の魅力ある地域をさらに魅力あるものとするため、町内の連携や交流を促進します。

又、高速道路の開通や地域幹線道路の整備により、圏域内や圏域間がより身近になることから、圏域全体の活力を向上するため、圏域内外はもとより、国内外も含めた交流・連携を促進します。

重点プロジェクト

新町まちづくりの重点プロジェクトは以下のとおりです。プロジェクトとは、将来像実現や課題解決に当たって取り組んでいくべき施策・事業の組み合わせを示します。

梅産業の振興：『うめ日本一の元気なまち』

新町の梅産業はブランド・生産量ともに日本一であり、地域の経済を支えています。しかし近年、国内他産地の生産量増大、輸入低価格梅干の増加などにより、紀州梅の消費についても樂觀が許されない状況であり、その対策が課題となっています。今後とも地域を支える基幹産業として持続的に発展していくために、県立梅試験場を核として、公民協同により6次産業をトータル・コーディネートするという考え方のもとで施策を検討し実施していきます。

6次産業：新町の主な

産業（梅、備長炭、漁業）は、栽培（1次産業）・加工（2次産業）・流通（3次産業）の全ての業態が整っています。1、2、3は足しても掛けても6になることから、業態・業種を超えてそれぞれが連携し、産業全体を盛り上げていくという意味を込めて6次産業と言います。



県立梅試験場の完成予想図

交流の場の整備：『互助・互恵のまち』

新町は、南部川の源流から河口まで一水系全てを包含することで、山の恵みと海の恵み（自然と人材）の両方を享受できる豊かな環

境を有する町となります。

これらの恵みを効果的に生活と融合させるためには、相互の連携と交流が必要であり、交流の場の整備が求められます。

このため、南部川村民センターを改修し、町民の交流の場として整備します。

又、野外イベント、遠足や老人会などの集まりなどで住民が憩える空間となる公園の整備を図ります。

さらに、山間地域において、自然林の復活、南部川水系の保全、山間地域、地域の相互理解のための住民交流を目的とした、環境保全自然公園の整備を図ります。

中心市街地の魅力化と商業振興：『便利・安心・安全なまち』

梅、炭、魚など他産業と商業の連携による商品・サービスの魅力化や、既存施設を有効活用したイベントの開催、若者の活動（音楽等）の空間（まちなかミニコンサート会場）の提供な

どにより、中心市街地の魅力化と商業振興を図ります。

又、コミュニティバスの運行、公共施設の駐車場の休日開放などにより、中心市街地へのアクセスの確保を検討します。



合併記念イベントの開催：『永く住みたい魅力あるまち』

健康・福祉日本一の町の実現に向けた梅林ウォーク（仮称）の実施や、新産業の起業や消費拡大のPRを狙いとした、梅、備長炭、漁業による合同産業祭（仮称）など、各分野において合併記念イベントを開催します。

みなべ川フォーラム（仮称）

の開催：『緑豊かで快適なまち』

南部川上下流の新たな連携の構築をめざして、みなべ川フォーラム（仮称）を立ち上げ、それぞれの地域のまちづくり等住民組織の活動の相互交流や、ボランティア活動などを通じた人材育成、南部郷を取り巻く自然の保全と活用など、全町での取り組みを進める場とします。又、フォーラムの活動をより充実したものとするため、関係者の意向を踏まえNPO化についても検討します。

第6回 合併協議会は
7月18日（金）
午後1時30分
南部町役場3階大会議室

新町の将来像イメージ図

海・山・川の恵みの中で人が輝く
快適なコンパクトタウン南部郷



まちづくり計画は、次回、7月以降の協議会で毎回協議し、確認して行く手順になっています。協議の内容等につきましては、次回以降の合併協議会だよりで順次お知らせする予定です。

まちづくり計画について、詳しくは合併協議会事務局（☎84 - 3180）にお気軽にお問い合わせ下さい。又、インターネットホームページにも掲載しています。アドレスは、<http://www.gappei-minabego.jp/> です。

表紙写真提供
南部町ウミガメ研究班
代表 後藤清さん



後藤さんのお話

一つの町になることにより、「山には山の自然というすばらしさ」、「海には海の自然というすばらしさ」を共有することができると思います。

そして、このウミガメという珍しい野生動物は、自分たちのかけがえのない財産であり、未永く守っていかなくてはならないと思います。是非一度、皆さんにご覧頂きたいと思えます。

私は年齢的にも、そう若くはないので、将来的には、ボランティアのような体制を整えていただいて、中断することなく、このウミガメの保護・研究を続けていってもらえればと思います。

尚、後藤さんは本年6月、第2回わかやま環境賞を受賞されました。

ウミガメの観察については、必ず南部町役場内 南部町教育委員会にお問い合わせ下さい

（☎7212015
内線251）

後藤さんは、昭和60年から千里海岸を中心にアカウミガメの保護・研究をされています。例年、産卵が始まる5月から10月にかけて活動されており、特に5月下旬から8月にかけては、毎晩夜中2時頃まで南部町青年団と日本ウミガメ協議会（大阪）のボランティアスタッフと一緒に海岸をパトロールされています。

昨年のウミガメの上陸数は、142頭 産卵数は61頭で、約15年前のピーク時（上陸数1,000頭余、産卵数300頭余）と比べると、数は激減していますが、本州では一番多いと言われています。